

2026 年 9 月 25 日

NEWS RELEASE

キヤノン株式会社

競技空間を遠隔地でリアルタイムに再現するスポーツ観戦体験を実証 キヤノンのボリュメトリックビデオ技術・MR システムと NTT 等の提唱する「IOWN APN」を活用

キヤノンは、愛知・名古屋で開催されている第 20 回アジア競技大会のバスケットボール競技を対象として、キヤノンのボリュメトリックビデオ技術と MR システム「MREAL」、NTT 等の提唱する次世代通信基盤「IOWN^{※1} APN」を活用し、遠隔地に競技空間をリアルタイムに再現する新たなスポーツ観戦体験の実証実験を 2026 年 9 月 18 日（金）に実施しました。本実証実験は、競技空間を遠隔地で 3D 空間データとして再現し、MR デバイスを活用した自由な視点でのライブ観戦を提供する世界初^{※2}の取り組みです。



実証実験会場（東京・虎ノ門）での
MR デバイスによる観戦体験の様子



愛知国際アリーナ・川崎事業所・東京会場を結ぶ
本実証実験の構成イメージ

ボリュメトリックビデオ技術は、約 100 台のカメラで同時に撮影した映像から、空間全体を 3D データ化する技術です。キヤノンはこれまで、撮影から映像生成までをリアルタイムに行うことができるボリュメトリックビデオシステムを、スポーツ中継や音楽のライブ配信、テレビ CM の制作などの幅広い用途で提供してきました。

今回の実証実験では、愛知国際アリーナで撮影した第 20 回アジア競技大会バスケットボール競技の映像を、NTT 等の提唱する次世代通信基盤「IOWN APN」による高速・大容量・低遅延の通信環境を活用し、キヤノンの川崎事業所へ試合中にリアルタイムで伝送しました。これにより、従来は撮影拠点に設置する必要があった 3D 空間データ生成サーバーを遠隔地に配置することができ、撮影拠点における機材配置の最適化や、設備・運用面の効率化を検証しました。

さらに、川崎事業所で生成した 3D 空間データを東京・虎ノ門のサテライト会場へリアルタイムに伝送しました。会場では、スポーツビジネス関係者や施設運営事業者など約 60 名の参加者が MR デバイスを装着し、テーブル上に立体的に再現された試合中の選手の動きやプレーを自由な視点からリアルタイムに視聴しました。複数の参加者が同じ 3D 空間を囲み、それぞれ自由な視点から競技を観戦することで、遠隔地にいながらも会場にいるかのような臨場感を共有できる新しい観戦体験を実現しました。競技空間を遠隔地でリアルタイムに 3D 空間データとして再現し、MR デバイスを活用して自由な視点によるライブ観戦を提供した本実証実験は、世界初の取り組みです。参加者からは、スポーツ観戦の新たな可能性への期待を示す声が寄せられました。

本実証実験で検証した観戦体験が普及することで、スタジアムやアリーナの臨場感を遠隔地に届ける新たな観戦スタイルとして、視聴拠点となる施設の稼働率向上や地域拠点の活性化などへの貢献が期待されます。

キヤノンは今後、国内外のパートナーとの協業や施設管理事業者との対話をさらに深めながら、本技術の社会実装に向けた取り組みを推進し、スポーツ観戦における新たな映像体験の創出を目指します。

※1 IOWN（Innovative Optical and Wireless Network の略、アイOWN）とは、あらゆる情報を基に個と全体との最適化を図り、光を中心とした革新的技術を活用し、高速大容量通信ならびに膨大な計算リソースなどを提供可能な、端末を含むネットワーク・情報処理基盤の構想です。

※2 2026 年 9 月 24 日現在。（キヤノン調べ）

* キヤノンは、第 20 回アジア競技大会のオフィシャルパートナーです。

〈実証実験参加者コメント〉

■ 元バスケットボール選手（bj リーグ 2013-2014 MVP）城宝 匡史 様

「初めてこのような映像を体験し、非常に衝撃を受けました。コートサイドに座らなければ観られない視点や、上から見下ろす視点など、さまざまな角度から試合を観られる点が素晴らしい技術だと感じました。プロの選手でも、コート全体を俯瞰して観る機会はなかなかありません。この技術を活用することで、選手やコーチが同じ視点からプレーを振り返ることができるため、スカウティングなどの面でも活用できるのではないかと感じました。」

■ 株式会社群馬クレインサンダーズ 取締役ゼネラルマネージャー 吉田 真太郎 様

「今回の体験を通じて、大きく 2 つの可能性を感じました。1 つ目は、アリーナに足を運ばなくても、まるでその場にいるような臨場感でさまざまな視点から試合を観戦できる、これまでにない 3D 観戦体験の可能性です。2 つ目は、コーチと選手が同じ映像を自由な視点で多角的に確認できることによる、競技力向上への活用です。今後のスポーツ観戦や競技指導などにおいて、間違いなく必要とされる技術になっていくのではないかと感じました。」

〈ご参考〉

■ 本実証実験の概要

実施日：2026 年 9 月 18 日（金）

撮影会場：愛知国際アリーナ（愛知県名古屋市北区名城 1 丁目 2-22）

3D 空間データ生成場所：キヤノン株式会社 川崎事業所（神奈川県川崎市幸区柳町 70-1）

視聴会場：虎ノ門ヒルズ インキュベーションセンター「ARCH Toranomom Hills」

（東京都港区虎ノ門 1 丁目 17-1 虎ノ門ヒルズビジネスタワー 4 階）